

**第 2 次北見市社会教育計画に係る令和元年度事業点検・評価について
第 2 回会議（書面会議）における質疑・意見のまとめ**

事業名	意見・質疑・事務局説明
その他・全体を通して	<p>質疑：チェック項目の「参加者が増加しているか」、「広く周知されているか」の部分で、「△」が目立つ。少子高齢化、人口減少、個人の興味の多様化などは仕方がない要因だが、今まで通りの内容を変えずに実施していくことが難しくなってくると思う。何か対策はあるか。</p> <p>回答：主にチラシやポスター、広報誌などのほか、ホームページや SNS などの媒体を利用して周知を図っていますが、参加者の増加に結び付いていないのが現状だと考えております。新型コロナウイルスの感染防止対策として「オンライン（インターネット）」の利用が増加しており、周知を含め事業の開催方法自体を検討する必要があると考えます。</p> <hr/> <p>意見：全体的に周知を課題としている事業が多いと感じる。新規のユーザー、若い世代へどのようにアプローチしていくかが重要だと思う。従来通りの折り込みチラシや広報への掲載、社会教育施設へのポスター掲示では情報が届かないユーザーがいるので、SNS でのコミュニケーションや、魅力あるページ・タイムラインづくりを継続して行うなど、若い世代の見ているところへ出向くことが有効だと思う。スマートフォンを 1 人 1 台持つ今の時代に、ネットによる繋がりを社会教育現場で積極的に活用していくことが重要だと考える。</p> <p>回答：多様化する若い世代の興味・意識を引くため、カフェや大型スーパーなど若年層の目に入りそうな場所にチラシを配置するなど工夫しています。周知に用いる媒体は紙とインターネットがほとんどですが、それらをより有効に使えるような手法について検討してまいります。</p>